

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1292700133
法人名	株式会社ワカバ
事業所名	湖北台ケアガーデンワカバ
所在地	千葉県我孫子市湖北台10-9-21 (電話) 04-7187-8800

評価機関名	特別営利活動法人コミュニケア研究所		
所在地	千葉県中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	5月26日

【情報提供票より】(21年3月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 名	常勤5人	非常勤5人 常勤換算4.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 2階建ての2階～2階部分
------	--------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	水道・光熱費27,090円+ 諸経費	
敷金	無	有りの場合 償却の有無	有(期間2年)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	300,000 円			
食材料費	朝食	525 円	昼食	630 円
	夕食	630 円	おやつ	105 円
	または1日当たり		1,890 円	

(4) 利用者の概要(3月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.22 歳	最低	66 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏光陽病院 佐藤内科医院 我孫子聖仁会病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の一角にあるクリーム色の2階建ての洒落た建物が湖北台ケアガーデンワカバである。1階に小規模多機能型居宅介護、2階にグループホームワカバがある併設型のホームである。ホームの入居者は日中、小規模多機能のデイサービスの利用者と共に過ごすなど、馴染みの間柄になり関係がとて良好である。1階には施設の特徴でもある足湯の設備があり、好きな時にいつでも利用することができる。また、庭には手すりのついた歩道が造られており、格好の機能訓練の場になっている。庭のフェンス前の広い空き地では子供達が野球を楽しんでおり男性入居者が見入っていた。建物の隣には公園もあり、散歩に最適である。事業所は近い将来スウェーデンのマッサージ療法である「タクティールケア」も採り入れる予定である。素晴らしい環境と特徴を活かし、地域に溶け込んだホームとして今後が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設1年のグループホームであり、外部評価の受審が初めてのため改善項目はない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者はミーティングで全職員に評価の意義について説明をしている。今回の自己評価は全職員で話し合い、管理者が取りまとめた。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議は2ヶ月に一度開催している。参加者は家族、自治会長、民生委員、地域見守りの会代表、市職員、事業所職員で議題は現状報告、事業報告などで、参加者による活発な意見交換を行っている。今後は運営推進会議で自己評価の内容、外部評価の結果についても話し合い、サービスの質の向上に繋げることを期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	運営推進会議で家族の意見を聞くようにしている。また、毎月送付する介護連絡表に家族の意見を記入する欄を設け、表出し易いよう工夫している。家族からの苦情は苦情担当係が対応し、毎月行われる職員会議で話し合い共有を図っている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会にも加入し地域の夏祭り、クリーン作戦など地域行事に入居者と共に参加している。また、ホームで行われる行事についても近隣住民に声をかけている。今後、地域ボランティアの受け入れも検討中である。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「思いやりといたわりの心」をもとに、地域に根ざした介護を目指し、住み慣れた地域で今までと同じ暮らしが続けられるように、全職員で小規模多機能型居宅介護事業所とグループホーム共通の理念として「笑顔の絶えない施設」を作り上げた。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの長期・短期の目標を設け、全職員が理念を理解し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し夏祭り、クリーン作戦など地域の行事に入居者と共に参加している。ホームで行われる行事についても近隣住民に声を掛けている。今後、地域ボランティアの受け入れも検討中である。		
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については管理者が説明し職員は理解している。また、今回の自己評価については初めてのことであり、ミーティングで話し合い全員で行った。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催され、参加者は家族、自治会長、地域見守りの会、民生委員、市職員、事業所職員などで、議題は事業報告、現状報告などで、参加者による活発な意見交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市の介護保険課の職員が参加している。また、介護相談員を受け入れているほか、入居者との相談で市職員が訪問することもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	介護連絡表に入居者の健康状態や受診の記録、行事の様子などを記入し、居室担当者のコメントを入れ毎月の請求書とともに家族へ送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族の意見を聞くようにしている。また、毎月送付する介護連絡表に家族の意見を記入する欄を設け、意見を表出させるよう工夫している。夏祭りなど年2回行われるホームの行事には家族の参加もあり、そこでも話し合う機会を作っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職はほとんどないが、移動や退職による入居者のダメージを防ぐ努力をしている。また法人としては職員の離職を防ぐため育児支援制度、メモリアル休暇制度などの充実を図っており、職員の異動による入居者へのダメージを防ぐ努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはベテラン職員が付き業務を覚えてもらうよう教育している。また、外部研修の案内を行い職員に参加を促し、参加した職員は研修内容のフィードバックを行っている。職員のモチベーションは高く、今年度より法人としても職員研修を強化する方針である。		研修の年間スケジュールを作成し、現場でのトレーニング、外部研修や内部研修の受講、及びキャリアに応じた研修など体系的な取り組みが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネジャーは、6か月に一度開かれる事業者連絡会に参加し、他ホームとの情報交換を行っている。また、市の勉強会等にも参加しネットワークの強化を図っている。今後は現場職員も含め同業者との交流を深めたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や、小規模多機能のデイサービスを利用して徐々に安心してホームに慣れてもらうようにしている。また、本人や家族の思いを最優先にしたケアを心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者からは食材の保存方法、調理の仕方、郷土料理の作り方などを教わっている。また、職員は入居者から励まされることもある。		
.その人らしいけらしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在は自分の思いを比較的はっきりと伝えられる入居者が多く、職員はできるだけその意向に添えるように努めている。思いをうまく伝えられない入居者については家族等から話を聞き、言葉にならない思いを汲み取ろうとしている。そして、把握した入居者の希望などは職員間の連絡ノートに記入し、職員のなかで共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各居室担当、ケアマネジャー、管理者による定期的な担当者会議のほか、職員全体のミーティングの時には担当以外の職員からも情報や意見を踏まえ、それぞれの入居者の介護計画に活かしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は入居者の日々の状態の変化を注意深く見守り、必要があれば随時、すみやかに介護計画の見直しをしている。しかし、見直しは現場の職員まかせになりがちであり、計画に則った見直し、記録が不十分と思われる。		アセスメントから職員全員で取り組もうという方針のもと、新たなアセスメントの方式を、現在管理者とケアマネジャーが勉強しているところである。アセスメントと連動した介護計画の見直しと、本人、家族の要望を取り入れた新たな計画書の作成、それに沿ったケアが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の友達の家の訪問や、馴染みの店への付き添いなど個別の外出支援を行っている。また、かかりつけ医の通院支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者それぞれのかかりつけ医を優先し、受診の際には通院等の支援をしている。また協力病院の内科医が月2回、歯科医が週1回往診に来ている。入居者の定期的な健康診断も計画中である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看取りに対する方針ができており、入居の契約の時に本人・家族と同意書を交わしている。できるかぎり本人や家族の意向に添いたいと考えているが、それを支える医療機関との話し合いが遅れている。また、職員との方針の共有が不十分と思われる。		協力病院や訪問看護ステーションとの連携体制の確立が急がれる。またターミナルケアについて全職員が認識を深め、具体的な話し合いを重ねていくことを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を損ねることのないように、職員は言葉かけや対応に配慮している。個人の情報や記録等は鍵をかけて保管し、ミーティングの折々には、個人情報の取り扱いについて職員間で確認し合っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、折々に入居者の意向を尋ね、できるだけそれに添えるように努めている。寝坊をする、食事の時間をずらす、たばこをたしなむなど、一人ひとりのペースや希望を尊重して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が一緒に献立を立て、買い物や準備・調理・片付けも一緒に行っている。職員も同じテーブルを囲み、会話のある明るい食卓風景である。しかし入居者の好みや希望に合わせた食事の提供の点では、楽しみになるようにさらなる工夫が必要と思われる。		入居者にとって食事やおやつは大きな楽しみである。彩りや量の工夫でバラエティに富んだ豊かなメニューができると思われる。入居者が目と舌で楽しめるような食事の提供が望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	機械浴の設備もある明るく広々とした浴室で、入居者の体調や希望に応じて毎日午前、午後入浴できるようにしている。週2、3回の利用が多く時には入浴剤も入れて楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のなかには掃除や調理等に参加している人もいる。リビングではピアノを弾く、そのまわりで歌う、デイサービスの利用者と共におしゃべりする、カラオケをするなど思いおもいに楽しんでいる。また、リビングでの足湯でリラックスすることもある。今後家庭菜園づくりも始める予定である。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が近所の友人の家やなじみの店に行きたいときは付き添って出かけたり、散歩も週2、3回、天気の良い日に出かけている。ドライブ、外食等に出かけることもあるが、全体的に外出の機会が少ないと思われる。		ホームは閑静な住宅街のなかにあり、隣には緑の多い公園、目の前には広々とした空き地があり、散歩にも恵まれた環境にある。職員態勢も検討し、一人ひとりの希望に添えるような外出の支援が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーマットを使用している。入居者がひとりで出かけようとしている時は、職員はさりげない声かけをしたり、ついて行くなどの対応をしている。余裕のある時はそのまま一緒に散歩することもある。今後は入居者の行動パターンの理解・把握により努め、見守り、気配りのケアをしたいと考えている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急・事故発生時マニュアル、消火器の整備等のほか、スプリンクラーや自家発電装置の設備も整っている。しかしながら具体的な消防訓練計画を立てている最中であり、防災訓練の実施もまだされていない。		災害時には自家発電装置により地域への貢献も考えられており、地域の自治会との協力体制の話が進められている。今後はさらに地域、消防署など関連機関との連携を密にして、防災・防火・夜間対応訓練などを定期的に行うことが早急に望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は入居者の体調や既往症等に対応してカロリー・量・形状など個々に合わせて提供している。食事や水分摂取の記録を取り、栄養バランスや水分量に気を配っている。今後は管理栄養士による栄養チェックやアドバイスを受けることも検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リゾート地のペンションを思わせる明るく居心地の良い設計・空間づくりがされている。テラスに通じる高く広いウィンドーから入る日差しはブラインドで調節している。リビングやテラスにはゆったりとできる椅子とテーブルが程良い間隔で配置され、広々とした量のスペースはあえて段差をつけて入居者が気軽に腰掛けられるようにしている。リビングの一角には足湯のスペース、テラスには手すりのついた回廊もある。テレビを消して心地良い音楽を流していることも多く、生き届いた配慮がうかがえる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、テレビなど入居者が馴染みのものを持ち込んでいる。居室の扉は一部にガラスがはめ込まれたデザインになっているが、希望があればその部分にカーテンで目隠しすることもできる。扉の横の壁には自分の部屋の目印になるように写真や馴染みのものを飾るボックスが設えてある。		